

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H03372

研究課題名（和文）建築・聖教・美術から見た新義・古義を包括的に捉える日本密教史の再構築

研究課題名（英文）Reconstructing the History of Japanese Esoteric Religion from the Perspectives of Architecture, Buddhism Documents and Records, and Arts

研究代表者

山岸 常人（Yamagishi, Tsuneto）

京都府立大学・文学部・特任教授

研究者番号：00142018

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,100,000円

研究成果の概要（和文）：日本の密教寺院に関しては、事相中心の古義真言教団と、教相中心の新義教団という図式的区分がある。古義教団の醍醐寺では、灌頂や諸尊法の伝授だけでなく、教相聖教の作成・書写・修学・法会が行われていた。一方の新義教団の寺院の実態は、これまで史料が乏しかったが、既往研究を踏まえつつ、智積院所蔵史料を調査することによって一挙に実態が明瞭となった。これらの史料蒐集の結果、高野山・醍醐寺・根来寺、さらに周辺の多くの地方寺院の間での聖教の書写・貸借を踏まえた修学・伝授のネットワークが確認され、事相・教相を総合的に受容する中世密教寺院の実態が明らかになった。新義・古義の教団理解にも修正を加えることとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

真義真言宗関係寺院所蔵の聖教（仏教関係文書・記録）を調査・蒐集することによって、事相（密教の実践）中心の密教史や、教相（密教理論）面での思想的研究に限られていた仏教史を再構築することが可能となった。中世における真言宗僧達は密教修法のみ、あるいは仏教の学術的な修学のみを实践するのではなく、両者を包括した多面的な修学活動を行っていた。また、それを実現するために、特定の寺院に定住するのではなく、寺院間や教団を越えた僧侶達の頻繁な移動があり、またそのことによって聖教が地方寺院にまで伝播した。既存の中世密教史の理解への変革を迫ると共に、近世以降の教団形成史にも新たな視点をもたらすことができた。

研究成果の概要（英文）：There is a schematic division between the Kogi Shingon Sect, which emphasizes the actuality of the teachings, and the Shingi Shingon Sect, which emphasizes the doctrines of the teachings. At a temple of the Kogi sect, not only the conferring of priesthood and the transmission of various Dharma rings, but also the creation, copying, and study of the Sangyo scriptures and Buddhist rituals were conducted. On the other hand, there is a dearth of historical data on the actual status of Shingi Sect temples. In addition to the previous studies, a new survey of the Chishakuin Temple archives was conducted to clarify the actual state of the temples. As a result of the collection of these documents, a network of study and transmission based on copying and borrowing of sacred texts was confirmed among Koyasan, Daigoji, and many local temples. The reality of medieval esoteric Buddhist temples was clarified. It also led to a revision of the understanding of the cult in a Shingi and Kogi Sect.

研究分野：建築史・仏教史

キーワード：聖教 事相 教相 根来寺 智積院

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

密教寺院に関しては、大日経説法の本地法身説を採る古義真言教団と、加持身説を採る新義教団に区分する見方が一般的である。古義は事相に力点を置き、新義は教相に力点を置くと分類されてきた。しかし、古義教団に位置付けられる醍醐寺に於いて、灌頂や諸尊法の伝授だけではなく、教相聖教の作成と書写や法会の催行が行われていたことが知られている(永村眞『中世醍醐寺の仏法と院家』)では新義教団の寺院においては、どのような実態があったのか。このことに関しては、新義真言教団に関する史料発掘が遅れていて、古くからの図式的理解が解消されていなかった。

一方で、この科学研究メンバーは、新義真言教団の中核となる根来寺の寺史研究に関して、「根来寺史の総合的研究に基づく中世後期寺院社会像の再構築(科学研究費基盤研究(B) 課題番号24360256 平成24年度から28年度 以下、前科研と略記)を実施して基礎的史料の収集に先鞭を付けていた。この成果を継承・発展させて、上記研究状況の打破に繋ぐことが可能であった。

## 2. 研究の目的

本研究は、古義真言教団と新義真言教団の宗教活動の実態と、両者の相互関係を解明すべく、日本密教における教相分野に重要な影響力を持った新義真言教団を主たる研究対象として、新義派独自の教義・思想・法会・建築・彫刻・絵画の形成とその流布を実証的に追求することを目的とした。

## 3. 研究の方法

歴史研究は史料の蒐集と読解が全てである。目的に対応した史料蒐集が不可欠であるが、寺院所蔵史料は未公開のもの、整理や調査の行き届いていないものが少なくない。前科研以来の交渉を通じて智積院所蔵史料の披見がかなった。既知の史料の再収集と共に、智積院所蔵の史料を、詳細に実見し、所見を記録するとともに写真撮影を行い、それらをデータベースとした上で、個別の史料を分析するという方法を継続した。

## 4. 研究成果

新義真言教団の核であった根来寺が天正十三年に豊臣秀吉により焼き討ちされた後、根来寺教団組織は智積院と長谷寺に移り、近世以降、智山派・豊山派として展開する。同時に根来寺においても復興が行われた。しかし根来寺には近世以前の史料はほとんど伝来しない。このため新義派の中世に遡る歴史的動向は、智積院をはじめ関連寺院所蔵史料に頼るしかない。

この欠を補うべく、一つは既に公刊されている史料の集成作業を行った(後記報告(二))。特に醍醐寺については既に構築されている醍醐寺文書聖教データベースを活用し史料蒐集を行った。もう一つが、根来寺を継承する智積院所蔵の史料蒐集である。幸い智積院所蔵史料調査についての理解と許可をいただくことができた。新義真言宗智山派の智積院の文書・聖教については、同寺「新文庫」所蔵分に、天正以前の製作・書写・伝授された史料が多数含まれ、中世根来寺において教相・事相の聖教が継承されていることが判明した。もちろんその伝来の過程は個々の史料により異なるだろうし、近世以後の智積院に於いて作成された聖教も含まれている。結果的に、根来寺・高野山・醍醐寺・東寺等の中核となる寺院間での事相・教相の伝授・修学・書写の実態、そのネットワークに河内金剛寺等の周辺の寺院やさらには地方寺院も組み込まれていた状況が明らかとなり、さらに近世以降の新義真言教団の形成・展開の過程にも、

それが如実に反映していた。その過程では、特定の著名僧侶の他寺来訪だけでなく、修学・伝授のために幅広い階層の僧侶の往来が、頻繁に行われていた。こうした実態や、そこで学ばれ勤修された教相・事相の内実と寺院社会での意義は、なお子細な検討を必要とする。

このような研究の基礎資料とすべく、寺院間の史料の相互関係を知るための目録 と、智積院所蔵史料の詳細な文書聖教目録 を作成した。

上述のような宗教活動の実態は、文書・聖教以外に建造物・美術作品等に反映されることになる。逆に言えば建造物・美術作品を読み解くことによって文書・聖教から知られる情報を補強することになる。このため前科研から引き続き実施している根来寺の建造物・美術作品の詳細な調査とその成果のとりまとめも行った（ ）。

あわせて、寺外に散在する根来寺関係史料についても可能な範囲での蒐集を行った（一）。

なお歴史史料の調査は、研究者側の一方的な利用だけに終わらせてはならない。研究による史料の歴史的価値の顕在化の作業を踏まえて、諸寺が所蔵する史料の継続的な保存・管理・活用にも資するよう、研究者側から史料所蔵者側への還元も不可欠と考える。根来寺に関しては、調査研究成果 を踏まえて、建造物の国重要文化財指定が実現され、 を踏まえて歴史史料の国指定を協議中である。智積院所蔵史料についても今後の継続調査を通じて、所有者の意向を尊重しつつ、同様の方向を模索している。

以上の四カ年の調査研究では、高野山・醍醐寺・根来寺、さらに周辺の多くの寺院間での 聖教の書写・貸借を踏まえた修学・伝授のネットワークが確認され、事相・教相を総合的に伝授・修学する中世密教社会の実態が明らかになりつつある。それは新義・古義の教団とそこで修学された教学についての、近代における理解に大きな修正を加えることとなる。なお、智積院所蔵史料については、未調査部分が多く、新たな研究計画の下に、今後、後継的な科学研究費等に拠る調査も継続したいと考えている。

#### とりまとめた成果一覧

- 『根来寺境内建造物調査報告書』（根来寺 平成三十年）
- 『根来寺関係史料目録（寺外分）』（令和三年十月）
- 『智積院所蔵根来寺関係史料目録』（令和三年十月）
- 『根来寺史を解く』改訂版（朝日新聞社 令和四年三月）
- 『根来寺大伝法堂安置重要文化財大日如来坐像 像内追納品調査報告書』（仮題）  
（根来寺 令和四年度中刊行予定）

（以下未刊分）

- （一）「曾和家文書目録」（令和三年六月）
- （二）「根来寺関係史料集稿」（令和四年三月）

#### 調査協力者

- |               |  |
|---------------|--|
| 静岡市文化振興財団     | 廣田浩治   |
| 種智院大学准教授      | 西 弥生   |
| 日本女子大学文学部准教授  | 吉村雅美   |
| 埼玉県教育局文化資源課主査 | 関口真規子  |
| 日本女子大学        | 姜錫正・佐藤亜莉華・石塚菜々美・馬場智美・大松さやか・<br>神子美涼・磯村咲慧・須田清香・田口優花・松島彩華・森岡麗<br>・篠崎結・齋藤綾・齋藤莉瑚 |

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中川委季子	4. 巻 327
2. 論文標題 根来寺の仏宝（4） 南北朝時代の根来寺境内	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新義真言宗宗報「新義」	6. 最初と最後の頁 9～12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川委季子	4. 巻 329
2. 論文標題 根来寺の仏宝（5） 室町時代の根来寺境内	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新義真言宗宗報「新義」	6. 最初と最後の頁 4～8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永村 眞	4. 巻 324号
2. 論文標題 「頼瑠僧正の門葉と新義教学」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『新義』	6. 最初と最後の頁 4～6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平雅行	4. 巻 43号
2. 論文標題 「平泉惣別当に関する基礎的考察」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『京都先端科学大学 人間文化研究』	6. 最初と最後の頁 101～142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平雅行	4. 巻 42号
2. 論文標題 「中世延暦寺をどのように捉えるか」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『叡山学院研究紀要』	6. 最初と最後の頁 55 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平雅行	4. 巻 92号
2. 論文標題 「親鸞の帰洛について」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『伝道』	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山岸常人	4. 巻 671
2. 論文標題 根来寺の形成と大伝法堂	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊文化財	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川委紀子	4. 巻 324号
2. 論文標題 根来寺の仏宝 2 根来寺の境内 高野山大伝法院と荘園と末寺	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新義	6. 最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川委紀子	4. 巻 326
2. 論文標題 根来寺の仏宝 3 根来寺の境内 鎌倉時代の境内	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新義	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永村 眞	4. 巻 63号
2. 論文標題 中世根来寺の法儀と聖教	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中世文学	6. 最初と最後の頁 38 - 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永村 眞	4. 巻 323号
2. 論文標題 頼瑜僧正の門葉と新義教学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新義	6. 最初と最後の頁 4 - 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川委紀子	4. 巻 322号
2. 論文標題 「根来寺の寺宝」に連載にあたって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新義	6. 最初と最後の頁 5-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川委紀子	4. 巻 323号
2. 論文標題 「根来寺の仏宝」(1)－根来寺の境内－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新義	6. 最初と最後の頁 13-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川委紀子	4. 巻 2017
2. 論文標題 根来寺大塔安置仏修理事業	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 住友財団 年次報告書 2017	6. 最初と最後の頁 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永村 眞	4. 巻 211
2. 論文標題 「束草集」と根来寺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学 『根来寺と延慶本『平家物語』』	6. 最初と最後の頁 76～95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計7件

1. 著者名 永村眞編 当該論文執筆 藤井雅子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 135&#12316;164
3. 書名 永村眞編『中世寺院の仏法と社会』掲載「醍醐寺・根来寺と田舎本寺との寺僧交流 尾張国万徳寺を通して」	

1. 著者名 中川委季子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 313
3. 書名 『根来寺を解く』改定版	

1. 著者名 山岸常人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 672
3. 書名 日本建築の歴史的評価とその保存	

1. 著者名 中川委紀子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩出市	5. 総ページ数 14
3. 書名 根来寺の歴史と建造物	

1. 著者名 西弥生編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 386
3. 書名 『シリーズ中世の寺社と武士1 醍醐寺』	



1. 著者名 山岸常人・中川委紀子・川戸章寛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 総本山根来寺	5. 総ページ数 176
3. 書名 『根来寺境内建造物調査報告書』	

1. 著者名 山岸常人・永村眞・平雅行・中川委紀子・村田弘・廣田浩治・上島享・伊東史朗	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 歴史のなかの根来寺	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平 雅行  (Taira Masayuki)  (10171399)	京都先端科学大学・人文学部・特任教授   (34303)	
研究分担者	藤井 雅子  (Fujii Masako)  (20440084)	日本女子大学・文学部・教授   (32670)	
研究分担者	坪内 綾子  (Tubouchi Ayako)  (20794811)	日本女子大学・文学部・助教   (32670)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	永村 眞 (Nagamura Makoto)  (40107470)	日本女子大学・文学部・研究員  (32670)	
研究分担者	中川 委紀子 (Nakagawa Ikiko)  (70618991)	日本女子大学・文学部・研究員  (32670)	
研究分担者	富島 義幸 (Tomishima Yoshiyuki)  (80319037)	京都大学・工学研究科・教授  (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関